

阪神間に居住するブラジル人 児童の言語学習状況

ヴィヴィアン・ブッシンゲル
神戸大学大学院国際文化科学研究科博士後期課程

田中順子
神戸大学大学院国際文化科学研究科准教授

1

発表の構成

- ✦ 研究の背景
- ✦ 本研究の目的
- ✦ 先行研究
- ✦ リサーチ・クエスション
- ✦ 研究方法
- ✦ 結果
- ✦ 結論
- ✦ 今後の課題

2

研究の背景

- ✦ 多くの日系ブラジル人は日本で労働
 - ✦ 全国のブラジル人→**312,582人**(法務省入国管理局, 2008)
- ✦ 彼らの子弟の多くが日本語で学習
- ✦ 日本語を習得していないブラジル人児童が増加
 - ✦ 日本語指導が必要な外国人児童・生徒→**28,575人**
✦ そのうち, **11,386人(40%)**がブラジル人
(文部科学省, 2008b)

3

ブラジル人の集住地区と 非集住地区の比較

- ✦ 集住地区
 - ✦ ブラジル人の大きなコミュニティが存在
 - ✦ 日本人との接触が少ない
 - ✦ 日本語を話す必要性が低い
- ✦ 非集住地区
 - ✦ 大きなブラジル人コミュニティがない
 - ✦ ポルトガル語を維持するのに努力が必要

4

本研究の目的

- ✦ 阪神間で暮らすブラジル人児童の言語学習状況を調査し、彼らのポルトガル語維持やその発達と日本語習得に関する問題点を明らかにすること

5

先行研究

- ✦ 小内(2003)
 - ✦ 群馬県の在日ブラジル人教育・保育の現状の調査
- ✦ 中島&ヌナス(2001)
 - ✦ 8県242人のブラジル人小・中学生のポルトガル語と日本語の会話力の測定
- ✦ 生田(2006)
 - ✦ 愛知県のブラジル人中学生64名のポルトガル語と日本語の作文能力の測定
- ✦ 石井(2000)
 - ✦ ブラジル人児童・生徒の言語教育に対する父母の意識に関する調査

6

リサーチ・クエスチョン

- ✦ 1. 非集住地区(阪神間)の公立小学校に通うブラジル人児童のポルトガル語能力及び日本語能力は学年相当に達しているのか。
- ✦ 2. 子どものポルトガル語維持やその発達と日本語習得に関する親の態度は子どもの言語能力に関連があるのか。

7

研究方法

- ✦ 参加者
 - ✦ ブラジル人小学生(1~6年生)
 - ✦ 1年生12名、2年生9名、3年生8名、4年生5名、5年生3名、6年生4名
 - ✦ その児童の親
- ✦ 児童への調査方法
 - ✦ 言語能力テスト
 - ✦ TOAM (Test of Acquisition and Maintenance)の語彙カテスト
 - ✦ DRA (Developmental Reading Assessment)という読解カテスト
 - ✦ 日本語版→DRA-J、ポルトガル語版→DRA-P
- ✦ 親への調査方法
 - ✦ アンケート
 - ✦ 言語教育観、言語教育に関する意思決定、家庭環境
 - ✦ インタビュー、フォーカス・グループ

8

言語能力テストの分析方法

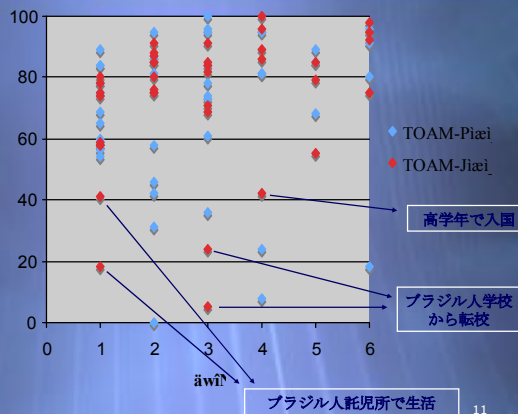
- ✦ TOAM語彙カテスト
 - ✦ 言語の優位性
 - ✦ 言語(回答)の正確さ
 - ✦ 中島&石井(2003)で報告された学年相当の平均に基づいて評価を行った。
- ✦ DRA-J & DRA-P
 - ✦ 評価基準が用意されている
 - ✦ 評価項目 → 音読の正確さ、読書習慣、内容の理解

9

語彙カテストの結果

- ✦ 日本語がはるかに優位 → 8名
 - ✦ TOAM-J得点の平均=91%
 - ✦ TOAM-P得点の平均=21%
- ✦ TOAM-J得点 > TOAM-P得点 → 10名
- ✦ TOAM-P得点 > TOAM-J得点 → 12名
- ✦ 両言語のTOAM得点が同じ程度 → 9名
- ✦ 両言語においてTOAM得点が低い → 2名

10



11

児童の語彙力の内容

- ✦ 学校に関するものは日本語だけで知られている場合が多い。
- ✦ 両言語の回答において、児童は対象物の名称がわかっても、その細部の名称が分からない。
- ✦ ポルトガル語の語彙力が限られている児童の場合、その中でも知っている語彙は食べ物に関するものである。
- ✦ 親にポルトガル語で話しかけていない児童のポルトガル語による動詞の使い方にある傾向が見られた。状態を表現するものなのに、命令形で表現する。

12

読解力テストの結果(DRA-J)

- ✦ 学年相当のテキストが読めた児童 → 26名
 - ✦ テキストの理解度が高かった児童 → 8名
- ✦ 学年相当より1~2レベル下のテキストを読んだ児童 → 10名
- ✦ 学年相当より3レベル以下のテキストを読んだ児童 → 5名
 - ✦ ブラジル人学校から転校した児童 → 2名
 - ✦ 高学年で来日した児童 → 2名
 - ✦ 語彙力でも学年相当に達していない児童 → 1名

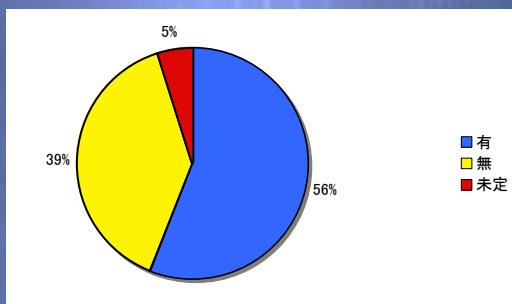
13

読解力テストの結果(DRA-P)

- ✦ DRA-Pを受けた児童 → 11名
 - ✦ 学年相当のテキストが読めた児童 → 3名
- ✦ DRA-Pを受けることができなかった理由
 - ✦ ポルトガル語が話せない
 - ✦ まだローマ字を学習していない

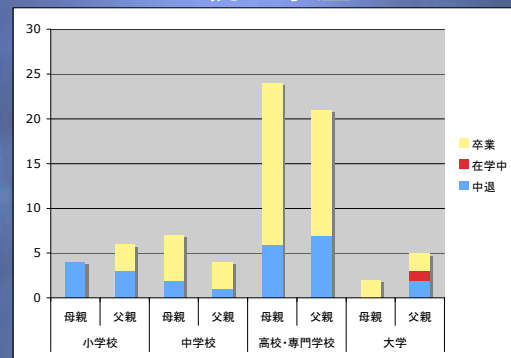
14

親の帰国予定



15

親の学歴



16

子どものポルトガル語維持・発達 に対する親の態度

- ✦ 母語教室に通う児童は19名
- ✦ 親の言語教育観に関するアンケートで高く評価された項目
 - ✦ バイリンガリズムに対する強い期待
 - ✦ 家庭言語としてのポルトガル語使用
 - ✦ 母語喪失の問題点の意識
 - ✦ 母語・母国文化の学習が及ぼす影響

17

子どもの日本語習得 に対する親の態度

- ✦ 親は子どもの日本語習得、教科学習、学校での適応等を心配している
- ✦ 親の言語教育観に関するアンケートで高く評価された項目
 - ✦ 子どもの学力向上を希望
 - ✦ 子どもの学校での適応を希望
 - ✦ 父母の学校行事への積極的参加

18

児童の言語能力と家庭環境の関連性

表1 児童の家庭環境・背景と児童の語彙力との相関 (N=41)

使用言語	TOAM-P		TOAM-J	
	優位性 (r_s)	正確さ (r_s)	優位性 (r_s)	正確さ (r_s)
親子間での使用言語 (親から子どもへ)	-.494**	-.649**	.458**	.450**
親子間での使用言語 (子どもから親へ)	-.560**	-.715**	.520**	.529**
日本での滞在年数	-.226	-.432**	.204	.638**
ブラジルでの滞在年数	.173	.566**	-.085	-.270
親の帰国予定	-.364*	-.575**	.341*	.419**
日本への入国年齢	.197	.494**	-.146	-.336*

注: * $p < .05$, ** $p < .01$.

19

結論

★リサーチ・クエスチョン1への回答

- ★ 阪神間に居住する多くのブラジル人児童の日本語能力はポルトガル語能力より高い。

★リサーチ・クエスチョン2への回答

- ★ ブラジル人児童の語彙力に最も関連があった要因は親子間での使用言語である。

★親の態度

- ★ 阪神間のブラジル人父母は子どもの言語習得、教科学習、学校教育等を心配している。

★家庭内での支援ができない理由は

- ★ 親の日本語能力と学歴の低さ
- ★ 親の長い労働時間

20

今後の課題

- ★ 非集住地区に居住するブラジル人やその他の外国人児童の言語習得とその発達の現状を調査し、家庭環境と児童の言語能力をさらに検討し、彼らの言語習得や教科学習に適切な支援を与えること
- ★ 経済不況により、ブラジル人学校に通えなくなる児童の生活環境と言語学習の状態を調査し、適切な支援を与えること

21

参考文献

- ★ 生田裕子 (2006) 「ブラジル人中学生の「書く力」の発達-第1言語と第2言語による作文の観察から」『日本語教育』第128号, pp. 70-79
- ★ 石井恵理子 (2000) 「ポルトガル語を母語とする外国人児童生徒の言語教育に関する父母の意識」『日系ブラジル人のバイリンガリズム』第7回国立国語研究所国際シンポジウム 第1専門部会 pp. 116-142
- ★ 小内達 (2003) 『在日ブラジル人の教育と保育-群馬県太田・大泉地区を事例として-』明石書店
- ★ 中島和子 (2006) 「ダブルリミット/一時的なバイリンガル現象を考える」『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会第7回研究集会予稿集』 pp.1-4
- ★ 中島和子&ロザナ・ヌナス (2001) 「日本語獲得継承語喪失のダイナミクス-日本の小・中学校のポルトガル語話者の実態を踏まえて-」ATJ Seminar 2001, Heritage Panel Papers. (<http://www.japaneseteaching.org/ATJseminar/2001/naejima.html>)
- ★ 中島和子・石井恵理子 (2003) 「母語・継承語の語彙の特徴-語彙調査に向けて」第2回「母語・継承語・バイリンガル教育を考える会」研究会発表資料 (November 28, 2008, 国際文化会館)
- ★ 法務省入国管理局 (2008) 「国籍 (出身地) 別外国人登録推移」(<http://www.moj.go.jp/PRESS/090710-1/090710-3.pdf>) 2009年08月06日
- ★ 文部科学省 (2008) 「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査 (平成20年度) の結果」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/07/_icsFiles/afieldfile/2009/07/03/1279262_1_1.pdf) 2009年07月19日
- ★ 文部科学省 (2009) 「ブラジル人学校等の実態調査研究結果について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/03/_icsFiles/afieldfile/2009/04/17/1259580_1.pdf) 2009年7月30日

22